

実践者から学ぶ農福連携 Vol.3 株式会社デ・リーフデ北上

①

就労継続支援B型事業所との連携及び障害者の直接雇用という2つの形で農福連携を10年ほど前から行う「株式会社デ・リーフデ北上」の事例を紹介！



◆ 株式会社デ・リーフデ北上の概要

石巻市でトマト・パプリカ栽培を行う株式会社デ・リーフデ北上。農作業の「仕組化」を進めることで、障害者就労施設との連携及び障害者を直接雇用を行い、誰もが輝ける農業の仕組を実現。

◆ 農福連携の取組

● 就労継続支援B型事業所との依頼作業例

〈定期作業〉

- ・ 出荷用段ボールの組み立て（箱折り）、
トマト・パプリカの袋詰め

〈不定期作業〉

- ・ 栽培サイクルの節目における
ハウス内の清掃・環境整備



● 障害者の方の直接雇用

一般のパート職員と同じ工程を担い、活躍。

- ・ 栽培・出荷： トマト・パプリカの誘引、葉かき、
摘果、収穫などの「耕種作業」全般
- ・ 飲食部門： 直営飲食店でのバックヤード業務
（皿洗い・清掃など）



◆ 農福連携の成功のポイント

1. 「特別扱い」より「仕組み化」

「障害があるから」と構えず、「誰でも間違えずに作業できる環境」を日頃から整える。
 具体例：段ボールに「折る順番」を印字。視覚的に手順がわかる仕組みづくり。

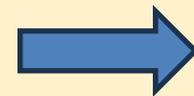
2. 業務の「切り分け（分解）」で依頼範囲を明確にする

大きな工程をそのまま任せず、作業を細かく分解。
 仕事を分解することで、「障害者就労施設に依頼できる作業」が明確になる。

3. 対等な「コミュニケーション」

直接雇用の場合、他の職員同様に「できたこと」「直すべきこと」を伝える。
 一人の戦力として向き合うことで、本人の安心と成長に繋がる。

◆ 実際にパブリカの箱折りの際使用されている段ボール



記載された番号順に折って
 いくだけで、
 簡単に箱が組
 み立てられる。

